

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 2 6 日
② 法人・団体名	NPO 法人維新隊ユネスコクラブ		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名 まで)	東京都新宿区		
③ 責任者氏名	濱松敏廣	(役職名等)	理事長
④ 担当者氏名	濱松和香子	(役職名等)	理事／事務局

【奨学活動の概要】

⑤ 助成交付決定番号	R07-021	⑦ 助成金額	100 万円	⑧ 申請カテゴリー	DS
⑨ 奨学活動名	自習室&食事つき個別指導型無料学習拠点の開催				
⑩ 主な実施場所名・ 及びその住所	東京都新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 トレーラーハウス				

⑪ 活動内容とその成果の概要

<活動の目的と内容>教育格差是正を目的として、食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」と無料自習室「STUDY CAMP」を実施。2024 年 7 月～2025 年 3 月の間に、塾 32 回、自習室 164 日を開催した。

<参加人数>

- ・ステップアップ塾（西新宿教室のみ）：塾生のべ 180 人/ボランティア講師・スタッフのべ 204 人
- ・STUDY CAMP（西新宿教室のみ）：利用者のべ 364 人/ボランティアスタッフのべ 143 人

<活動の成果>高校受験生 1 名が第一志望校に合格・進学した他、利用者の多くが学力の向上を実感。

<助成金で購入したもの>令和 7 年度の助成金は、職員・スタッフの人件費として活用。

⑫ 奨学活動の定量的把握

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	213	2	426	塾の中学生のべ 102 人と自習室中学生のべ 111 人
高校生等	161	3	483	自習室高校生のべ 161 人
大学生等				※大学生は支援対象としていません
学習支援員等	347	3.5	1214.5	塾ボランティアのべ 204 人と自習室管理ボラのべ 143 人
その他				
合 計			2123.5	

⑬ その他の定量的な数値（任意）

◆保護者アンケート（5 段階評価/＊1＝「変化なし」）

- ・学校の成績が上がった：平均 3.0 / ・子どもの自己効力感の向上を感じる：平均 3.3
- ・食品支援や子ども食堂を利用した：22. 2％/奨学金情報を利用した：4.4％

◆塾生アンケート（5 段階評価/＊1＝「変化なし」）

- ・勉強がわかるようになった：平均 4.2 / ・塾で勉強することで気持ちが明るくなった：平均 3.5

令和7年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：自習室&食事つき個別指導型無料学習拠点の開催

法人・団体名：NPO 法人維新隊ユネスコクラブ

作成者 氏名：理事／事務局 濱松和香子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

当会は、家庭環境や学校環境に困難を抱える子ども達の学力向上と心身の健康増進を図り、希望する進路に挑戦する機会が平等に得られる社会環境の構築を目指して、2014年から新宿区内で週1回の無料塾事業と、2018年から無料自習室を同時運営してきました。現在は、月～金曜日の平日週5日を無料自習室として開放し、土曜日のみ無料塾を開催することで、自習室のある無料塾として週6日の学習支援事業を行っています。生活環境による学力格差が顕著になっている昨今、学校を起点とした行政主導の学習支援の他に子どもが無料で利用できる学校外教育の場や放課後の学習の場を設け、基礎学力の向上を図ることで、子どもの置かれている生活環境による学力差を是正することを目的としています。今回の助成により、‘トレーラーハウス型教室’という移動可能な設備である利点を活かした活用を標準化することを目指し、活動を全国へ水平展開するモデル拠点として実施しました。

2. 実施した奨学活動の詳細

◆個別指導型無料塾「ステップアップ塾」



① 食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」授業の様子



② 教室外観。トレーラーハウスの教室と屋外で食事やおしゃべりができるダイニング、簡易キッチンのある設

備となりました。



③ 授業後に手作りの食事を囲みます。



④ 食後の片付けもみんなで協力しています。

<取り組み内容>

家庭や学校等の事情により一般的な学習塾を利用することが難しい小・中学生に対し、年間で42回（7～2月の間では32回）の学習指導と食事の提供を、ボランティアの高校生・大学生・社会人講師と共に実施しました。毎週土曜日夕方にボランティア講師が小学4年生～中学3年生の学習指導をし、授業後に食事の提供を行っています。その他、授業前にワークショップを開催してボランティア講師と塾生の心のつながりを作ることや、食支援・奨学金情報を定期的に提供すること、保健士や臨床心理士のボランティアスタッフが希望者にメンタルカウンセリングを無料で実施することなど、学力向上のために学習面だけの支援ではなく包括的な子どもの暮らし・学びの支援に取り組んでいます。

●受益者数

- ・登録者数7名（中学生4名、小学生3名）/年間延べ180人
- ・ボランティア講師・スタッフ参加者数のべ204人

●周知方法

- ・新宿区子ども家庭課の協力による情報発信（チラシの配布等）
- ・ひとり親 Tokyo（(公財)東京都ひとり親家庭福祉協議会）の協力によりメールマガジンでの情報配信
- ・SNS や団体 HP での情報発信等

●地域やボランティア活動との連携

・早稲田大学のボランティアセンターの登録団体である学生インカレサークル「学習支援 Step Up!」が学習指導ボランティアとして多数参加

- ・地域の子ども食堂開催情報を塾生の家庭に向けて発信
- ・東京ワセダロータリークラブの協力で学生ボランティアのリーダーシップ教育プログラムへの参加
- ・東京ワセダロータリークラブから食材費の支援

●支援員について

- ・学生ボランティア講師として、学生インカレサークル「学習支援 Step Up!」から多数の現役大学生が参加
- ・高校生のボランティア参加者も多数参加。そのうち、これまで塾生として参加していた者がボランティアスタッフとして参加している様子も見られた。
- ・社会人のボランティア参加者も数名見られた
- ・(感想①) こんなに貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。
- ・(感想②) 子どもたちの成長を感じられてやりがいを感じました。
- ・(感想③) 社会課題に直接関われる貴重な機会になったと感じています。
- ・(感想④) (発達障害のある塾生を担当させていただき) 大学で特別支援教育を専攻していますが、いっそう頑張りたいと思われました。
- ・(感想⑤) 以前は塾生として通っていて、卒業してボランティア講師として参加しています。講師として参加するようになって、私が勉強しやすいように先生たちが話してくれたり接してくれていたことにあらためて気づき、先生たちって本当にすごいなと感じました。

◆食事つき無料自習室「STUDY CAMP」



①STUDY CAMP は、みんなが静かに自習する場所です。奥のテレビモニターで随時近隣の子ども食堂情報を流しています。



②全ての机に、QRコードで支援情報にアクセスできるように、サイネージを設置しています。

<取り組み内容>

平日 16～21 時に開催する無料自習室事業です。利用者はステップアップ塾生の他、地域の小学 4 年生～高校 3 年生までとし、利用登録者は自習室の開催時間中自由に利用できます。室内の軽食・教材・Wi-Fi・PC・コピー機も無料で利用できるものとし、また室内で奨学金情報や近隣の子ども食堂の紹介を通じて、生活を支える情報の発信も行っています。自習室の開放を通じて、学習を通じた放課後の居場所の確保にもつながり、国内最大級の歓楽街歌舞伎町や「トー横」を有する新宿区内で、家庭に居場所がない子どもが安易に危険な場所に行かなくても食事や学習にアクセスできる場所として機能しました。

●受益者数

- ・ 2025 年度西新宿教室利用登録者数 36 名（小学生 9 名、中学生 11 名、高校生 16 名）
- ・ のべ利用者数 364 人
- ・ 教室管理ボランティアスタッフ数のべ 143 人

●周知方法

- ・ 新宿区子ども家庭課の協力による情報発信（チラシの配布等）
- ・ ひとり親 Tokyo（(公財)東京都ひとり親家庭福祉協議会）の協力によりメールマガジンでの情報配信
- ・ SNS や団体 HP での情報発信等

●地域やボランティア活動との連携

- ・ 地域の子ども食堂開催情報を室内で常時発信する他、塾生の家庭に向けて発信
- ・ 東京ワセダロータリークラブから食材費の支援

●学習支援員について

- ・ ボランティア募集サイトで募集をし、近隣に在住する社会人や大学生などが参加
- ・ 室内の清掃や食材・教材の管理、利用者の対応を担当
- ・ 利用者からの要望があれば、学習指導（質問対応）を行う
- ・ (支援員の感想①) テキストや軽食の在庫確認をしているときに「勉強頑張っているなあ」と感じられます。
- ・ (支援員の感想②) 何度か利用している中学生の人が明るい顔で自習室に入ってきてくれると、嬉しく感じます。

<助成金の使途>

今回の助成事業では、運営スタッフの人件費に充てさせていただきました。多くの助成事業で、人件費への充実に上限が定められている場合や、使途が食事や消耗品費といった直接費に限定されている場合も多い中、事業の運営に欠かせないスタッフ人件費に充当することができ、大変助かりました。教室でも常に「樫の芽会」のロゴを教室に掲示しておきました。また毎月発行している学級新聞でも、毎号名称の掲載を行いました。



<ご紹介>

<支援者の皆さま>

- ・ 特別協賛 : フレックス(株)
- ・ 協 賛 : (株)UPDATER (株)八洋
- ・ 助 成 : (公社)日本ユネスコ協会連盟 (公財)樫の芽会 (財)ルシシステム東京市民活動助成基金 草の根市民基金ぐらん
三登食品これからの100年基金 スミセイ未来を強くする子育てプロジェクト (スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞)
- ・ パートナー : 高知ユネスコ協会 (認定NPO)フードバンク北九州ライフアゲイン
- ・ 車両提供 : KTGホールディングス(株) フレックス(株)
- ・ 会場協力 : (株)あさひ総合建物(前橋敷島B.O) 芸能花伝舎(西新宿B.O) (株)堀野商事(新江古田B.O) 土佐塾予備校(高知はりまやB.O)
トヨタモビリティ東京BizFleet新宿(東新宿教室)
- ・ 教材協力 : (株)教育社教育グループ ジャパン建材(株) (株)スプリックス 土佐塾出版 富士フィルムビジネスイノベーション(株)
- ・ プロボノ : 伊藤仔夜里 猪俣秀成 上田&パートナーズ法律事務所 是松龍汰 杉崎実 杉山佐保里 住吉佳子 高橋恵理子 谷村友佳
玉置仁・元子 永沼よう子
- ・ 特別協力 : 学生インカレサークル学習支援STEP UP! (早稲田大学・上智大学) K-Step 東京ワセダロータリークラブ 日本ハム(株)
- ・ 協 力 : ありがとうブック(株) SCSK(株) (株)キャリアヴィジョン 佐久間英彰 (株)私塾界 ステップアップ塾OB会 中野区社会福祉協議会
(株)ニューチャートワークス (公財)パブリックリソース財団 ファミリーマート沼袋二丁目店 (股)山元学校
(NPO)ゆったりへの
- ・ 提 供 : 赤城ラーメン 石和実 (株)EPLink 今井進 (株)ウェブアプト 岡三証券(株) (株)ON-LIFE 木徳神糧(株) (NPO)こうち食支援ネット
恒和建総(株) (株)コスモコーティング (認定NPO)セカンドハーベスト・ジャパン (株)ティーマックス 日本証券業協会 畑中恵美
フードバンクまえばし 前橋北部猟友会 楽天証券(株)

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

- ・ 無料塾事業においては、経済的な問題を抱える子どもだけでなく、不登校である・発達障害があって集団での授業が難しい・外国籍で基本的な漢字が分からない、といった理由で参加を希望する子どもが見られました。年の近い高校生・大学生と一緒に勉強をすることで意欲が高まり気持ちが和らいだ、との声を保護者から聞きました。
- ・ 塾を卒業して高校生になった人が、ボランティアとして参加するだけでなく、平日も頻繁に自習室を利用する様子も見られます。卒業後も、教室が学びの場として塾生に定着していることが理解できました。
- ・ アンケート調査を実施したところ、全体の22.2%の家庭が、教室で提供した情報を通じてフードパントリーや子ども食堂を利用したとの回答がありました。奨学金情報に至っては、利用したと回答したのは4.4%であり、利用を検討しているのは28.8%でした。食や奨学金等生活面での支援のニーズが依然として高いことが理解できました。

【反省点・課題】

<ステップアップ塾>

- ・ ボランティアの安定確保と育成体制の強化が必要と考えます。
- ・ 塾生の学習習慣の定着に個人差があるので、ボトムアップを図りたいと考えています。

<STUDY CAMP>

- ・ 利用登録から利用に至るまでにハードルがあるようで、登録者数はそれなりにある一方で、実際に利用する人が固定されてしまっているため「安心して行ける場所」としてのPRを推し進めたいです。そのために、引き続

き管理者ボランティアスタッフの確保に向けた取り組みを進めます。

【今後の発展性】

昨年度助成も助成していただき、小規模・可動式の学習拠点の開催についてある程度の標準化が進みました。そのため、更に小規模の、ハイエースなどを活用したキャンピングカー形式の学習拠点についてもプロジェクトが進行しており、こちらも南海トラフ地震への警戒が高まる高知県からのニーズを見込めるものとなっています。同時に、高知県だけでなく各地の過疎地域や限界集落等での活用にも、可能性が出てきました。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

無料自習室を開始した 2018 年当初は、トレーラーハウスの中に机と椅子と照明、冷蔵庫と電子レンジを設置しただけの部屋で、電気にも困るような場所でしたが、どうしたらこの設備で子ども達がストレスなく・楽しく学習に集中できるかを考え工夫を続け、現在の形になりました。おかげ様で、利用者・管理者スタッフ・ボランティアスタッフの皆さんにとって楽しく居心地の良い場所になってきています。困難を抱える子どもにとって、「あの場所にいけば大丈夫」と思える場所を作ることには大きな意味のあることであると思うと共に、その場を維持し続けることも更に重要で、その意味では可動式の設備は有効であると感じています。助成事業を通じてこの場を支えて下さったことに、篤く御礼申し上げます。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

※税理士による監査報告書を添付します。